

努力を続けることの大切さ



新年の始まりは、誰にとっても物事の取組への新たな期待とともに、挑戦への意欲を高めてくれます。

私たち人間は、目標があることで努力をし、努力したことで成果を期待するものです。しかし、努力すれば、すぐに望んだ結果を手にできるわけではありません。努力の仕方や時間のかけ方にもよりますが、なかなか成果が表れないこともあります。ですから、努力を続けることの大切さや、努力の積み重ねの意味についても、子どもたちに伝えていく必要があると思います。

以下、私が前任校の学校だよりで掲載した文を紹介します。

いくらやってもうまくできなかったことが、ある日を境に急にできるようになる。このような経験をされたことはありませんか。

たとえば、水泳や鉄棒などは、一生懸命練習を続けていても、なかなか上手にはならないものです。ところが、毎日練習を続けていると、ある日突然、それまでできなかったことが急にできるようになることがあります。水泳でいえば、なかなかできなかった息継ぎが、ある時スツとできるようになったり、鉄棒なら、それまでできなかった逆上がりが簡単にできるようになったりする。よく言う「かべ」を越えたということです。

このことを、日本教育技術学会会長の向山洋一氏は、自身の著書の中で、「努力は段階的に重ねなければならぬが、進歩は加速度的に訪れる。」と述べています。努力を蓄積していくことと比例するように、進歩は一步一步見えるようには訪れてこないというのです。でも、目に見える進歩は訪れないけれど、自分の内では力が少しずつ蓄えられている。そして、一定のところまで力の蓄えができた時、いっぺんに目に見えるようになる。つまり、努力は図のAのように一つ一つ積み重ねなければならぬが、上達はBのように、ある時、急に訪れるというのです。

私自身も、幼い頃の自転車の練習で同じような経験をした記憶があります。ですから、これまで担任していた子どもたちには、次のように話してきました。

「努力してもなかなか上達しない時、進歩が目に見えない時が一番つらいけれども、うまくなるということは、毎日毎日貯金したがんばりを、いっぺんに返してもらうように訪れるものなんだよ。」「かべを越えるまでの努力の積み重ねは人によっても違うけど、努力は一つ一つ積み重ねることが大事なんだ。」

子どもたちを励ます時には、努力を続けることの意味や大切さも伝えていきたいと思っています。

